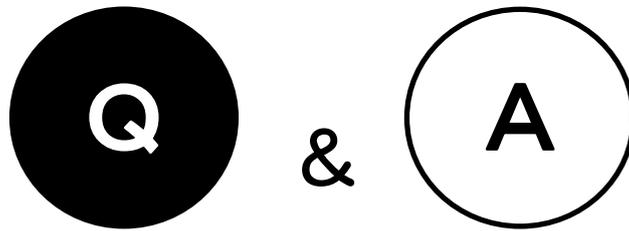


第73回通常総代会
上程議案 質問事項



ひと・夢 いいね。
 JAひまわり



第73回通常総代会上程議案質問事項とりまとめ結果について

本年も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、通常総代会事前説明会の開催を見合わせる事になりましたが、総代の皆様より頂いた質問事項に対する回答をまとめましたのでご報告させていただきます。

今後とも、総代の皆様をはじめ組合員の方から頂く貴重なご意見を、JA運営に反映するため役職員一丸となって取り組んでいく所存です。

農家の所得向上・地域サービスの安定的提供などJAの自己改革が問われるなか、組合員の皆様から信頼され、安心して利用できる組織・事業体制を構築してまいります。

一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

質問事項とその回答

第1号議案

Q

総代会資料には本店、支店の施設の状況が記載されているが、各店の設置年月を記入した方が何年経過して改修となるなど、改築の目安になると思うがどうか。

A

総代会の資料は、農業協同組合法施行規則に基づき記載しています。また、施設の改築・改修については施設の状況や環境変化等を考慮し、計画的に進めていきたいと思っております。

Q

職員の減少がここ数年間でかつてない程に多いように思うが、自己都合退職者が多い要因は何か。

A

令和2年度においては、特に結婚により遠方へ転居されること、また、自分の夢を実現するために転職した職員がいたことが要因です。

Q

職員の状況では、当期末 501 人であるが、JAひまわり設立時の役員数（理事、監事、職員）とその後 10 年ごと（10 年、20 年、30 年）の役員数と報酬並びに職員数と人件費を明示して欲しい。

A

以下の通りとなりますのでご確認ください。

（単位：人・千円）

	理事	監事	職員数	報酬	人件費
平成 2 年度	20	6	701		
平成 12 年度	23 (2)	7	737	60, 286	3, 455, 642
平成 22 年度	24 (4)	8 (1)	499	82, 270	3, 207, 676
令和 2 年度	25 (4)	8 (1)	501	82, 280	3, 009, 124

（注 1）理事・監事の人数のうち、カッコ内の数字は常勤の人数です。

（注 2）平成 2 年度、平成 12 年度と平成 22 年度、令和 2 年度では、職員数の集計方法が異なっています。

第 5 号議案

Q

3 月期の地区運営協議会で営農拠点を 1 か所にする以前の答申と比べて、2 拠点とする現計画に至った主要因は過剰投資を避けることだと回答があった。その時点では、具体的な投資規模には言及出来ないため、後日、返事するということがあったが、その後何も回答がない。今後 3 年間の施設投資計画の具体的な予算付けは総代会終了後に行うとあるが、方向性を決める際の判断基準において、概算でもいいので前もって教えて欲しい。加えて、多大な予算が必要となる第 10 次中期総合施設整備計画の投資金額や費用対効果が明らかになる段階で、再度、総代会（臨時）で計画承認を行うべきであるとするが如何か。JAひまわりでかつてない規模の投資計画であることを考えれば、組合員への丁寧な合意形成が必要だと考える。

A

今回の総代会における提出議案としては、当 JA の将来を見据えた大規模な総合施設整備計画の方向性に関する承認を得たいと考えています。総代会終了後、施設整備の検討を進める際には、運営協議会委員・生産部会等皆さんの意見・要望をお聞きして進めていきます。また、利用料等の上昇を出来るだけ抑制するため、費用対効果を十分に検討した上、適正な規模の施設を考えていきますので、臨時総代会の開催は考えていません。



Q

長期にわたるコロナ禍において、営農意欲が低下している厳しい状況下で営農拠点の統廃合を強引に進めていくのはどうか。このところ、組合員との接点が乏しくなったことを踏まえ、農家の思いに寄り添うJAの姿勢をこれまでも増して発信すべきではないか。計画の全否定はしないが、今は将来に禍根を残すような拙速な具体化（例えば土地取得）を避け、熟慮の時間を設けていくべきであり、一人でも多くの組合員農家の理解を得る努力をする時期である。コロナ収束が進んだ折には、是非、組合員との意見交換や理解醸成の場を数多く設定して欲しい。今後の組合員との対話方針を教えて欲しい。

A

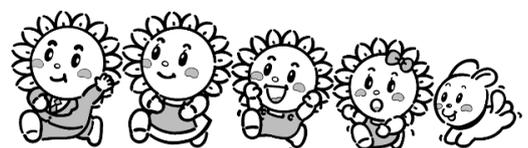
施設規模も具体的な内容については、組合員の意見要望を聴取した施設となるように進めていきます。また、令和3年度の事業計画では、新たな営農関連施設や産直店舗の整備を見据え、生産部会の生産基盤拡大を目的とした予算額70,000千円の『生産部会活性化支援事業』を実施します。また、令和元年度から実施している予算額30,000千円の『農業生産性向上対策支援事業』では、助成対象対策項目の見直し等を図り、地域営農ビジョンの到達を促進します。さらに、令和2年度に実施した『新型コロナウイルス感染拡大の影響による緊急支援策』を令和3年度も継続実施するなど、生産者の営農支援をしっかりと行っていきます。なお、令和4年度以降における『生産部会活性化支援事業』については令和3年度の事業状況を踏まえて実施可否を判断します。また、営農渉外担当者の増員や農機渉外担当者及び出張修理専用車両の配置により「出向く体制の強化」を図るとともに、デジタル社会への対応として『デジタル化推進積立金』を新設し、デジタル活用による新たな利便性の向上等に努めていきます。

Q

やすらぎ会館ごゆ、豊川支店、蔵子支店のいずれも閉店後の利用方法の前提が無いまま費用を使うだけになっている。利用希望のアイデアなど時代のニーズに合わせては如何か。例えば、アイデアや費用を外部から取り入れ数年で回収するなどクラウドファンディング方法など考えてはどうか。

A

総合施設整備計画に伴う利活用については、今後、事業を廃止する施設を組合員のために活用でき、かつ、持続的な事業継続が可能であることを基本に検討していきます。また、当JAでは、新規事業創造プログラム「東三河イノベーターズゲイト」に職員を参加させ、新たな事業の創出に努めています。新たな発想のもと、既存の施設の活用方法を見出していきたいと考えますが、仮に利活用の目途が立たない場合は、売却等を視野に遊休資産とならないように努めていきます



Q

農機センターは現状のままとして、利便性を重視してもらいたい。また、営農本部棟については、集約する農機センターの予定場所に整備して危険分散を考えてはどうか。

A

農機センターについては令和2年度末をもって東部農機センターを中部農機センターに統合させて頂き、将来的には管内1農機センターとする構想です。今後は、職員の訪問体制の強化により、利用者の方の利便性を損なう事が無いよう対応させて頂きます。営農本部棟については新たな集出荷施設と併せて検討を進めていきます。

Q

今年4月に開催された総合施設整備計画に関する説明会の質問・意見・要望集を拝見した。建物中心的な計画書であり、組合員へのサービスがどうなるのかが、資料にないし説明もない。質問をすれば、「変わらない様に努力します。」という回答であり、説明が不十分ではないか。計画遂行に際して、早い時期より組合員・利用者の意見・要望を聞き、計画に修正を加えながら進めていないことが最大の問題である。説明会では「各種委員会で協議を繰り返し実施した」「理事会で審議・承認された」「収支確保の為、計画延期はできない」など、組合員の意見が反映されていない計画では認めることは出来ない。

A

4月に開催した施設整備説明会では、『なぜ、今回このような大規模な施設整備計画を実施する必要があるのか』に重点を置いた説明であり、施設整備に伴う『組合員サービスの対応』という点において伝わり難かった面がありました。今後は、提案した内容の実践に向け、運営協議会委員や生産部会等の皆様の意見・要望を聞き、具体的な取り組みを進めていきたいと思っております。

Q

いちご部会（中部）の部会員であるが、新しく計画する出荷場の施設を検討する際は、まず東三河地域青果物パッキングセンターを利用するように部会員に説明、誘導を行い、その後に施設規模を考え、この先右肩上がりに販売実績が伸びにくいと想定されるため、過剰なものにならないようにして欲しい。（部会員への説明をして欲しい）

A

いちご生産者による東三河地域青果物パッキングセンターの利用は産地維持として有効な方法である一方、現在の受入能力に限りもありますので、今後も共選出荷を本流としながら並行した利用になると考えます。また、新たな集出荷施設については、生産部会への意向調査や当JAの産地振興施策等に基づいた将来の産地規模を想定したなかで、効果的・効率的な施設利用ができるよう検討を進めます。

Q

支店統合により、豊川市の指定金融機関として引き続き役立てていけるのか疑問だがどのように考えているか。

A

支店数の減少によって豊川市の指定金融機関としての影響はありません。しかし、支店が閉店することに伴い、組合員・利用者の皆さまが窓口業務の利用が出来なくなり、ご不便をおかけすることになります。当JAでは便利で確実な「口座振替」をお勧めしています。支店統合による金融サービスの低下を防ぐよう努力してまいります。

Q

総合施設整備計画に関する説明会の質問等の回答に、「赤字部門の収支改善を主体とした損益構造改革、営農事業拠点や支店集約・整備などを進めることとしています。」とあった。4月に開催された説明会において、10年間で職員約70名減（希望退職なし）人件費約4億円減。施設の統廃合は3年間（令和3年度～5年度）で約5億円の効果との説明であったが、統廃合にどのぐらい投資をするのか。

A

第10次中期総合計画にある「総合財務計画」の固定資産の金額の令和5年度計画と令和2年度実績の差額分を試算しております。ただし、新集出荷場などの施設の規模や機能については、理事をはじめ関係する生産組織や地区運営委員から意見・要望を収集したなかで、将来を見据えた適正な投資額となるよう進めていきます。なお、営農関連施設では、利用可能な国庫補助金については積極的に申請する方針です。

Q

花きの新たな集出荷場の設置場所と利用料について教えて欲しい。

A

今回お示しした施設整備計画には青果と花きの総合集出荷施設を盛り込んでいますが、当該施設の設置場所について現時点では決まっていません。候補地の選定と施設の規模や機能に関する計画案は総代会決議後に策定するとともに、施設利用料等についても施設規模や運営経費などを根拠とした設定基準を示していきます。なお、施設整備計画については総代会決議事項であることから、具体的な内容については、総代会決議後に理事をはじめ関係する生産組織や運営協議会委員から意見・要望を収集したなか進めていきます。



第5・6号議案

Q

J Aひまわり理念、本当に大切な事だと思う。外国の農産物でなく日本で自給自足出来るよう、若者担い手育成支援指導を強くJ Aに要望したい。町内でも離農者が多く、農地に困っている。50年前のような黒字の農家になるよう少しでも日々の努力が大切だと思う。事業計画ぜひ実行して欲しい。

A

担い手育成の対策の1つに、就農インターン制度を平成28年度に新設し運用しています。この制度を活用し就農された方が2名（ミニトマト農家）と、現在3名の方が管内の受入農家の元で農業研修を実施中で、今年度中には就農する予定となっています。新規就農者が農業を始めようとする場合、特に農地やハウス等施設などの確保、農業機械や設備の導入、営農を開始するための資金や労働力確保など、地域の方の情報や協力を頂かなければ前に進めないこともあります。現状において、担い手の高齢化が進んでいる事や農業後継者不足は大きな課題ですが、農業後継者が一定の所得を確保し、安心した農業経営を行えるよう、J Aとして様々な支援策を検討し、地域農業振興を図っていきます。

第7・8号議案

Q

なぜAコープの経営主体が変わっていくのか。

A

当J Aでは平成25年4月より、愛知県下J Aグループが共同出資して設立・運営する県域共同出資会社「(株) エーコープあいち」へ経営を移管してきました。しかし、近年の競争激化から客数や売上げの減少が続き、今後の事業環境を踏まえると引き続き経営を維持していくことは困難と判断したことから、令和5年3月末をもって各J Aとの経営受委託契約を解消することとなりました。その対応策について検討した結果、当J A独自で経営を継続することは困難をきたすことから、事業の形態を変え新たな展開を図ること、またAコープ小坂井店につきましては、全農の子会社である(株) エーコープ近畿へ事業移管する方向で進めていきたいと思っております。

報告事項

Q

部門別損益計算書において、事業総利益に金額だけでなく各事業別の職員数（501人）を明示して欲しい。

A

事業別の職員数は以下の通りとなります。

(単位：人)

信用事業	共済事業	農業関連事業	生活その他事業	営農指導事業	計
135	73	166	97	30	501

その他

Q

平成30年6月27日開催の第70回通常総代会上程議案事前説明会において、県信連への預金利回り0.67%との説明であった。昨今の利子状況からすれば下がったと思うが、令和2年度の実績はどのぐらいか。

A

預金利回りについては0.67%です。令和2年度より、奨励金の基準が変更となり、奨励金の平均利回りが一時的に0.03%上がりましたが、マイナス金利状態が長引くなか、令和3年度から毎年0.02%減少していきます。

Q

音羽資材が無くなり大変困っている。少量の肥料・農業備品を西部営農センターまで行くのは困難であり何とかないか。

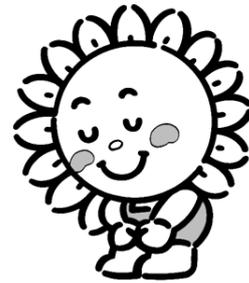
A

音羽資材店舗の廃止につきましては大変不便をお掛けしていますが、閉店後の対応について、事前の注文を頂ければ肥料などの農業生産資材は西部営農センターから配達させて頂きます。また、営農渉外担当者による巡回訪問も行っておりますのでお気軽に各種相談にご利用頂ければと思います。土、日の営業もしていますし、各種生産資材も取り揃えておりますので、是非ご利用頂ければと思います。

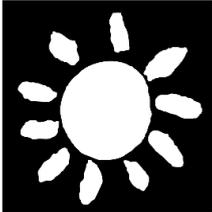
要望事項

- 統廃合は仕方がないかも知れないが、不便のないようにしてほしい。
- 折角、施設を整備するなら組合員の利用しやすいよう、今からでも遅くないので意見・要望を聞いてから施設整備を進めることを願います。

※ 多くのご意見・ご要望を頂き、ありがとうございます。
皆様の声を真摯に受け止め、今後のJA運営・取り組みに活かしてまいりますので、
よろしくお願い致します。







JAひまわり